

「希望に満ちた慰め」

～私たちが見つめるべきものは…～

「主ご自身が勝利者、征服者として天から降って来られる。すると、キリストを信じて死んだ人々がまず最初に復活し、それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に新しい世界に入れられて、そこで主とお会いする。こうして、私たちは皆いつまでも主と共にいるようになる。だから、このことをよく教えて、互いに慰め合いなさい。」第一テサロニケ4章16～18節（現代訳）

テサロニケの人々にパウロが語ったメッセージは復活の希望のメッセージでした。主が再び来られる時、主を信じる人々は復活し、永遠に主と共に生きることができるという内容でした。しかし、その時まで信じる者たちを励まし導いてくださるのは、聖霊様のお働きです。主イエスは永遠に弟子たちと共に生きることができませんでした。そのために、信じる者たちと永遠に共にいてくださる聖霊様に弟子たち、そして、その後に信仰を持つ者たちを委ねました。

主は私たちと同じように限られた時間だけ、この世におられました。私たちは何のために生まれ、何のために生きるのかということを知ってこの地上に生まれた訳ではありません。しかし、主は何のために生まれ何のために生きるのかということが明確でした。その内容が書かれているのが聖書ですし、クリスマスはその最大の出来事です。では、私たちは何のためにこの限られた人生を生かされているのでしょうか？

この日本には「小さいのちを守る会」というクリスチャンの団体があります。その元代表を務められていた辻岡健象牧師のマンガを読みました。非常に感動しました。辻岡牧師はもとも鉄鋼業の企業に勤めるビジネスマンでした。学生時代にクリスチャンになり、結婚前に信仰を持った奥様を出会い、結婚。お子様もお二人与えられて幸せな家庭生活を送っていました。会社では野球部に所属していたので、時々礼拝を休むこともありました。そんなある時、衝撃的な夢を見せられます。そして、神から声をかけられます。「おまえは自分のためだけにしか生きてこなかったのではないか」。クリスチャンではありましたが、どこか言い訳をして生きていた部分がありました。そして、立ち上がり、仕事をやめ、牧師となりました。そして、それから25年の月日が経過し、もう一度神から示されます。その頃日本ではアメリカの中絶問題を取り上げた『沈黙の叫び』というビデオが話題になっていました。そして、日本でも年間500万人以上の胎児が中絶されていました（1日1万人以上）。「辻岡、お前は自分の信仰のため、自分の教会のためだけしか働いてこなかったのではないか。私の創造した大勢の胎児が殺されている。今よりサマリヤ人となって胎児のいのちを助けなさい」。そして、彼は立ち上がり、中絶されようとするいのちを助け、子どもを産むすばらしさと、子どもを育てるすばらしさを橋渡しする役目を果たすようになりました。クリスチャンそれぞれに与えられた使命があります。私たちの歩みを通して神様の愛が流されていくことを願っています。